

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】平成21年1月22日(2009.1.22)

【公表番号】特表2002-503521(P2002-503521A)

【公表日】平成14年2月5日(2002.2.5)

【出願番号】特願2000-532145(P2000-532145)

【国際特許分類】

A 6 1 F 13/15 (2006.01)

A 6 1 F 13/49 (2006.01)

A 6 1 K 8/72 (2006.01)

A 6 1 K 8/00 (2006.01)

A 6 1 Q 19/00 (2006.01)

A 6 1 K 9/06 (2006.01)

A 6 1 K 9/107 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 P 17/00 (2006.01)

A 6 1 F 13/472 (2006.01)

A 6 1 F 5/44 (2006.01)

【F I】

A 4 1 B 13/02 N

A 6 1 K 7/00 J

A 6 1 K 7/00 W

A 6 1 K 7/48

A 6 1 K 9/06

A 6 1 K 9/107

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 K 39/395 D

A 6 1 P 17/00

A 6 1 F 13/18 B

A 6 1 F 5/44 Z

【誤訳訂正書】

【提出日】平成20年11月25日(2008.11.25)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 外部皮膚の酵素による皮膚炎の治療のための組成物の調製のための酵素指向性抗体の使用。

【請求項2】 前記抗体がエステラーゼ酵素指向性抗体であり、前記皮膚炎がエステラーゼ酵素の酵素活性によって生じるものである請求項1記載の使用。

【請求項3】 前記組成物がおむつかぶれの防止または治療のためのものである請求項1または2記載の使用。

【請求項4】 前記抗体がモノクローナル抗体、好ましくはそのフラグメントである請求項1または2 または3記載の使用。

【請求項5】 エステラーゼ酵素指向性抗体を含む組成物を含む使い捨て吸収製品。

【請求項6】 前記抗体が製品の0.00001から5%、好ましくは0.0001

から 1 % のレベルで存在する請求項 5 記載の使い捨て吸収製品。

【請求項 7】 おむつの形態の請求項 5 または 6 記載の使い捨て吸収製品。

【請求項 8】 前記おむつが、前記組成物を含むトップシートを具備する請求項 7 記載の使い捨て吸収製品。

【請求項 9】 前記組成物が、外部皮膚または使い捨て吸収製品への局所的適用のためのスキンケアクリーム、ローション、ゲル、オイル、軟膏またはパウダーの形態にある請求項 1 ないし 4 のいずれか 1 項記載の使用。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0005

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0005】

EP0117632-B は、リパーゼ阻害剤、好ましくは亜鉛含有成分および担体材料を含む使い捨て製品に関する。米国特許第 3,091,241 号は、リパーゼ酵素活性を阻害する膈挿入タンポンにおけるトリアセチンの使用に関する。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0009

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

発明の詳細な説明

ここでの抗体は、リパーゼ酵素を含むエステラーゼ酵素のような滲出物において存在する酵素の酵素活性により引き起こされる外部皮膚の酵素による皮膚炎の治療のための組成物の調製のために用いられる。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0010

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0010】

リパーゼ、リパーゼ酵素または脂肪分解酵素とは、エステラーゼに属する酵素の一群を表すために用いられるありふれているかまたは共通の術語である。その一般的な活性は、(ヒトの皮膚において見出されるグリセリドのような)エステル形態で存在する脂肪を加水分解することであり、従って、脂肪酸およびグリセロールを発生させる。この群の酵素は植物、黴、細菌、ミルク、および乳製品、並びにほとんどすべての動物組織中に極めて広く分布するので、およびさらに、ヒトのリパーゼ酵素は膵臓の滲出物中に存在するので、それは身体滲出物中にほとんど常に存在する。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0015

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0015】

抗体

本発明の本質的な要素は、ここでは(単に)抗体と称される、酵素指向性抗体である。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0025

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0025】

酵素の長い間の活性による欠点は、特異的に対応する抗体の導入を通しての酵素活性の有効な防除により回避され得る。そのような抗体は、ポリクローナル（酵素構造全体指向性）またはモノクローナル（酵素構造の酵素活性制御領域の特定のエピトープ指向性）のいずれかであり得る。特定の酵素に対して作られた抗体は、活性部位または活性部位の極めて近くにおける抗体抗原結合により酵素を有効に不活性化し得る。そのような複合体の形成は酵素の不活性化に導き、3次元構造の歪みおよび/または基質の割れ目における立体的な封鎖により説明されるであろう。